

## 小川賢之輔先生を偲んで

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 篠ヶ瀬, 卓二 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00025019">https://doi.org/10.14945/00025019</a>

## 小川賢之輔先生を偲んで

静岡県地学会運営委員 篠ヶ瀬 卓二



1983年(昭和58年)から3年間、静岡大学教育関係者以外の静岡県地学会の会長としてご尽力をいただいた小川賢之輔先生が2004年(平成16年)2月10日午前9時32分に入院先の新富士病院で急性呼吸不全により逝去された。2年前から、体調が優れず新富士病院に入院していたが、今年になってからは飲みこむ力も無くなり、点滴だけの寝たきり状態が続いていた。享年92歳。

1911年(明治44年)3月5日に静岡県富士郡鷹岡村天間に生まれ、1931年(昭和6年)静岡県静岡師範学校専攻科を卒業。富士郡大淵村立尋常高等小学校訓導に奉職。その後、東京都へ出向。東京市墨田第二小学校・向島木下川小学校に勤務。同時に海軍

ニューギニア学術探検隊地質調査員・東京科学博物館学芸官補を兼務。

戦後、静岡県吉原町立今泉国民学校・吉原中学校に勤務。1954年(昭和29年)、富士郡柚野村立柚野小学校校長に任命され、以後、吉原市立須津中学校・元吉原中学校・長泉町立長泉中学校・富士市立須津中学校長を歴任。定年退職後、吉原商業高校講師として2年間勤務。

先生の活動のあとをたどってみると、戦雲急を告げる1942年(昭和17年)、教諭時代に兼務しながらニューギニアの地質調査に出かけたことが偉大な足跡を残すものになっている。

戦後、ふるさと富士へ戻り、地域の理科教育の先達として能力を発揮された。とくに、理科教育に岩石の学習が導入されたことを機に、学校岩石園をPTAの協力の元、静岡県内から標本を集めることができたのも、その研究の成果の一端である。

勤務のかたわら、まとめられた1962年(昭和37年)発行の「愛鷹山」(吉原市教育委員会発行)は、現在でも貴重な資料になっている。また、1963年(昭和38年)発行の『静岡県原町誌』駿東郡原町の地形・地質の内容は、きめ細かくすばらしいものとなっており、1965年(昭和40年)には、地理学評論に『駿河湾北部に発達する田子浦砂丘の研究』を発表し、同じ年には「富士山周辺地質岩石の研究」を鮫島輝彦先生と一緒に執筆し、静岡県出版文化会の夏季巡検の案内もかかってでている。さらに、1973年(昭和48年)には、「富士火山三島溶岩流末端付近の溶岩塚群」を地質学雑誌へ発表している。

学校の勤務を離れてからの活躍も目覚しいものがあった。

富士・愛鷹山麓地域の自然環境保全と土地利用計画調査員、富士市自然調査研究会会長として、将来の展望をふまえた生活環境の保全につとめた。その功績に対して、学術功労の市長表彰をうけている。さらには、自然環境保全会議委員・市民憲章起草委員及び普及委員として、幅広い活動を展開し

てきた。

1983年（昭和58年）環境庁より緑の国勢調査員を委嘱され、東部教育事務所より地域振興指導者を委嘱された。同じ年に静岡県地学会会長にも推され、3年間会長職にあった。

その他、現在に至るまで、日本地質学会会員・日本地理学会会員・日本古生物学会会員など十指にあまる学会・研究会の会員としてうち込み、後輩の指導育成に努めて来られた。

これらの功績が認められ、平成11年3月30日には、高齢者叙勲・勲5等瑞宝章を受賞している。

よく親族の方々に逢うと、頑固一徹だったことを強調されるが、その意地っ張りな面が、立派な成果を生んだともいえる。

私ども地質学を志す静岡県地学会会員の先頭に立って御指導をいただいたことに感謝し、心からご冥福をお祈りする次第である。

ご家族の住所

〒417-0826 静岡県富士市中里164-4 電話 0545-34-1007

小川秀明様

主な執筆出版物（共著を含む）

1. 愛鷹山. 吉原市教育委員会（1962）.
2. 静岡県原町誌. 駿東郡原町教育委員会（1962）.
3. 富士山周辺地質岩石の研究. 静岡県出版文化会（1965）.
4. 富士・愛鷹山麓地域自然環境保全と土地利用計画調査報告書. 富士市（1974）.
5. 東海自然歩道の地学案内. 静岡県地学会（1976）.
6. 富士市の自然, 1次中間報告. 富士市（1977）.
7. 静岡の地学. 静岡県出版文化会（1978）.
8. 富士市の自然, 2次中間報告. 富士市（1981）.
9. 日曜の地学, 静岡の地質をめぐって. 築地書館（1981）.
10. えんそくの地学. 静岡県地学会（1983）.
11. 富士市の自然（本報告）. 富士市（1986）.
12. 富士宮市の自然. 富士宮市（1988）.